

第3回 日本通所ケア研究大会

合同開催：第2回 認知症ケア研修会in福山

■日 時 —— 平成17年11月19日(土)～20日(日)

■場 所 —— 広島県福山市
●リーデンローズ・アルシェ(19日)
●リーデンローズ・サンピア(20日)

■主 催 —— 日本通所ケア研究会 福山認知症ケア研究会

■後 援 —— 福山市

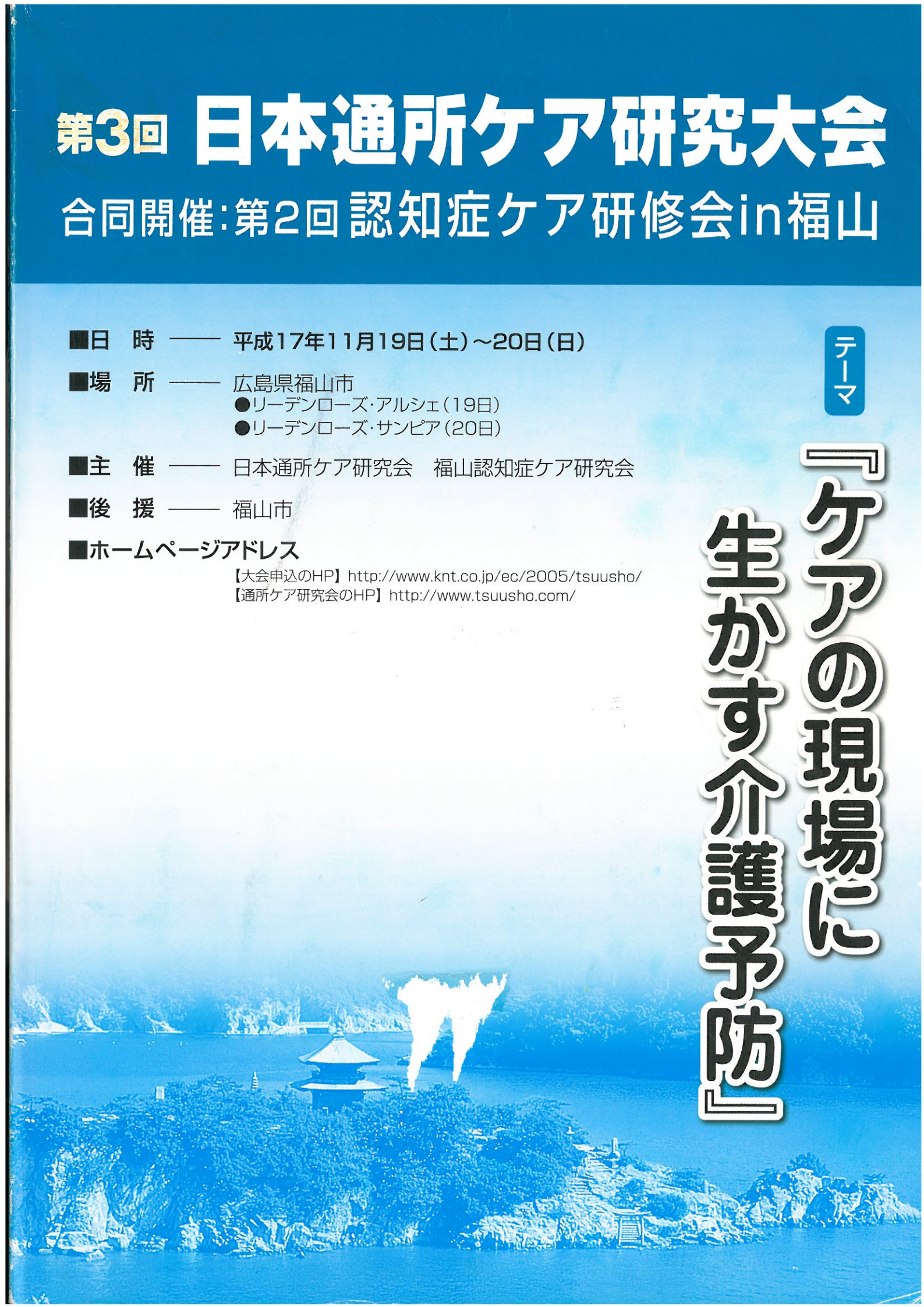
■ホームページアドレス

【大会申込のHP】 <http://www.knt.co.jp/ec/2005/tsuusho/>

【通所ケア研究会のHP】 <http://www.tsuusho.com/>

テーマ

『ケアの現場に
生かす介護予防』



一般演題

〈会場：ウエルサンピア福山 ホール〉

- 1 通所介護計画を効果的に実践するための取り組み
医療法人社団 らぼーる新潟 楽しいちデイサービス 石黒 陽子
- 2 4時間サービス導入の効果
永井医院 通所介護施設「はっぴい」 三上 優代
- 3 今、デイサービスに求められている事
社会福祉法人 こうほうえん 通所介護事業所 なんぶ幸朋苑 崎岡寿美恵
- 4 「新規利用者への対応」 ～不安感の軽減となじみへのアプローチ～
道後ペデルホーム デイケア 末光 詩織
- 5 「生きがいづくり」に視点をあてたデイサービスからの報告
デイホーム きて民家 沖中 正明
- 6 「T氏の在宅生活を支えるために」
～各専門職・他事業所との連携と通所リハビリの役割と課題～
介護老人保健施設 備前さつき苑 小林登志恵
- 7 デイサービス家族会立ち上げ・運営
社会福祉法人 マグノリアニセン デイサービスセンターさとの花 金井 昌子
- 8 小規模多機能施設における通所介護の役割
医療法人 城戸医院 デイサービスけやき 橋本 勝彦
- 9 ご利用者、そして家族からのクレームこそがニーズ！
介護老人保健施設 さかい幸朋苑 デイケア 渡部 陽子
- 10 デイの壁 見れそうで、見えない30人
伽の里デイサービスセンター 水田 智紀
- 11 デイサービスの接遇改善について
医) 社団いでした内科・神経内科クリニック 古河 裕児
- 12 当通所リハビリテーションにおける介護職員の役割
井野辺病院 通所リハビリ 栗林 瑞樹
- 13 「今週のゲームはなんね？」になるまで ～企画書の大切さ～
長崎みどり病院 藤本 利恵
- 14 通所ケアでの利用者満足と職員の意識改革 ～チームケアを通じて～
社会福祉法人 こうほうえん 通所リハビリ なんぶ幸朋苑 田中 寛哉
- 15 疑似体験から学んだケア ～利用者様の立場に立って考える～
社会福祉法人 サン・ビジョン グレイスフル下諏訪 岡谷・辰野・箕輪・日義 松崎 忍

通所介護計画を効果的に実践するための取り組み

樂いちデイサービス

介護職員 石黒 陽子 作業療法士 今井 直子

キーワード：自立支援、通所介護計画、意識づけ

作業療法士 飯田 瞳

はじめに

介護保険の基本理念は、自立支援の考え方であり、介助する場合も、できる限り利用者様の能力を生かす工夫をしなければならない。

樂いちデイサービス（以下当施設）では訓練的なリハビリテーション（以下リハビリ）は行うが、生活リハビリが十分実践されない現状であった。今回、当施設で行った介護計画の実践への取り組みとその結果について検討した。

施設概要

当施設は、定員 40 名の通所介護施設で「リハビリ支援」を運営方針としており、作業療法士（以下 OT）2 名、理学療法士 1 名が主に午後 2 時間機能訓練を担当している。

リハビリプログラムは、個別機能訓練、パワーリハビリ、集団体操、物理療法、マッサージ、レクリエーション、カラオケ、麻雀、入浴、各種作業などを組み合わせて実施している。

通所介護計画のより効果的な実践への 4 つの取り組み

(A) 対象

当施設の利用を 4 ヶ月以上経過した利用者様で、平成 17 年 6 月 1 日より実施した。

(B) 生活リハビリが実践されないと考えられる理由

- ・ 日常生活動作訓練はリハビリではないというイメージがある。
- ・ 介護してもらいたい気持ちがある。
- ・ 介護される事が習慣になっている。

(C) 実践への 4 つの取り組み

① ケアミーティングの強化

個別担当制を導入し、今までの単なる報告会から事例検討会にできるようにした。

② リハビリ個別面談の徹底化（OT 担当）

樂いちでのリハビリの目標確認・再設定を行い、自立の必要性について強調した。

③ 介護方法の自己決定

日常生活状況について利用者様と確認しながら介護に対する希望を聞き、①、②と併せ介護方法を自己決定していただいた。

④ リハビリに対しての意識づけのために、樂いちカードを作成

個別訓練メニューと介護計画を A6 のカード（樂いちカードと称した。）に併記し、利用者様とスタッフが必要時、介護方法などを確認できるようにした。

結果

取り組みから 3 ヶ月後、対象とした利用者様 115 名に対し、日常生活動作（以下 ADL）のうち屋内移動、トイレへの移乗、食事、排泄、整容、更衣の 6 項目について、改善した、悪化した、変化なしに分け、実施前後で評価を行った。

- ・ 6 項目中 1 項目以上改善—18 名
- ・ 6 項目中 1 項目以上悪化—14 名
- ・ 変化なし—83 名

* 悪化の利用者様の内訳

進行性疾患や認知症である利用者様—9 名

半年以内に転倒があった利用者様—5 名

変化のあった項目とその人数（単位：人）

項目	改善	悪化
屋内移動	5	11
トイレ移乗	5	7
食事	4	0
排泄	6	5
整容	3	5
更衣	6	4

考察

今回の結果は、全体的に著明な変化はみられなかった。しかし、18 人に ADL に改善がみられた。それは、リハビリメニューと介護計画を樂いちカードに併記することによって ADL 訓練も“リハビリ”と意識づけられたからと考えられた。そして、樂いちカードで確認しながら“リハビリ”を行うことが促しとなって、意識づけに繋がったと考えられた。また、悪化の 14 人では、特に屋内移動の悪化がみられ、そのことが他の ADL に影響を与えたと考えられた。

そして、職員自身も利用者様の自立に向けた介護をより意識でき、促し方、介護の仕方など、より効果的に行えるようになった。

今後も継続し、通所介護計画のより効果的な実践に取り組んでいきたい。